

平成 24 年 6 月 14 日

6 月定例所長会見における横村所長挨拶内容

○ 所長の横村でございます。

○ 福島第一原子力発電所の事故から 1 年 3 ヶ月が経ちますが、福島県の皆さま、新潟県の皆さま、そして広く社会の皆さまに、引き続きご心配とご迷惑をおかけしておりますことを、あらためて心よりお詫び申し上げます。

○ まずは、当発電所の状況についてです。

現在、全 7 基が定期検査中であり、今年、定期検査に入りました 5 号機、6 号機につきましては、津波対策工事など計画した工事も含めて、安全を最優先に順次作業を進めているところです。

津波対策工事の状況についてですが、防潮堤については、現在、1 号機から 4 号機側において基礎杭の打設工事や鉄筋コンクリートの擁壁の構築工事を進めており、約 3 割の進捗となっております。また、5 号機から 7 号機側においてはセメント改良土による盛り土の築堤作業を進めており、築堤本体に関する工事の進捗率は約 8 割の状況で、いずれも計画通りに進めているところです。

貯水池については、貯水池本体の掘削並びにセメント改良土による築堤作業を進めており、進捗率は約 5 割で、こちらも着実に工事を進めております。

1 号機と 7 号機においては、これまでに計画している津波対策工事が完了しています。5 号機、6 号機の津波対策工事についても安全を最優先に一つひとつの工事を進めているところです。

また、耐震強化工事についてですが、2 号機は先週までに、当初予定しておりました工事を終了致しました。4 号機については、引き続き、安全を第一に工事を進めてまいります。

○ 次に、WANOピアレビューについてお伝えいたします。

当発電所では、先月 31 日から昨日 6 月 13 日までの約 2 週間、世界原子力発電事業者協会（WANO）のピアレビューを実施いたしました。

WANOは、チェルノブイル事故を契機に 1989 年 5 月に設立された原子力発電事業者の国際組織で、原子力事業者同士の相互支援、情報交換、最高事例の導入を通じて、協働してパフォーマンスを評価、改善し、世界中の原子力発電所の安全性と信頼性を最高レベルに高めていくことを目的としており、当発電所におけるWANOピアレビューの実施は、2010 年 8 月に続き 3 回目となります。

今回のピアレビューの実施期間においては、WANOチームの方々と私どもが一緒になって、発電所員や作業員の方々の現場における操作や作業などを詳しく観察し、他の発電所の参考となるような私どもの発電所の取り組みや、世界水準と比較し更に改善できることなどについて意見を交わしました。

その中で、良好な取り組みとして、私どもの発電所は全般的に整理整頓が行き届いており特に原子炉建屋がクリーンであること、また、昨年の震災以降に地震・津波を含む重大事象対応及び緩和のための能力を確実にすべく広範囲な設備・施設を備えていることなどが挙げられました。

また、更なる改善を目指すところとしては、機器の圧力や温度などの運転データと機器の振動値・温度などの保守データを一元管理し、そのデータを活用する方法や、発電所で働く方々の訓練の効果をより高める方法などについて、アドバイスをいただいております。

昨年の震災以降、当発電所においては、さまざまな安全対策を進めるとともに、業務の改善にも重点をおきながら取り組んでいるところです。このたびのレビューを通じ、豊富な運転や保守の経験を持つWANOチームと世界の最高水準に関する議論を重ねることができたことは大変貴重な機会であり、私どもの発電所がより高い水準

を目指すための価値ある情報をいただいたものと考えております。

今後、このたびのレビュー結果も活用しながら、さらなる改善を進めより一層「災害に強い発電所」を目指して、所員、協力企業一丸となって取り組んでまいります。

○ 本日、私からは以上です。

以 上

添付) 柏崎刈羽原子力発電所DATA BOX  
プレス公表 (運転保守状況)

# 柏崎刈羽原子力発電所DATA・BOX(平成24年6月)

平成24年6月14日

## ① 発電所運転状況

プラント名	現在の 運転(発電)状況	前回定期検査	過去1年間の運転状況												補足説明
			7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	
1号機 110万kW (S60.9.18運開)	第16回定期検査中 定検停止期間:H23.8.6~	第15回 H19.5.4~H22.8.4 停止期間 H19.5.4 ~ H22.6.6 (1130日) (原子炉起動H22.5.31)	第16回定検による停止!												
2号機 110万kW (H2.9.28運開)	第12回定期検査中 定検停止期間:H19.2.19~	第11回 H17.9.3~H18.5.9 停止期間 H17.9.3 ~ H17.12.25 (114日) (原子炉起動H17.12.22)	第12回定検による停止!												
3号機 110万kW (H5.8.11運開)	第10回定期検査中 定検停止期間:H19.9.19~	第9回 H18.5.12~H18.9.15 停止期間 H18.5.12 ~ H18.7.27 (77日) (原子炉起動H18.7.24)	第10回定検による停止!												
4号機 110万kW (H6.8.11運開)	第10回定期検査中 定検停止期間:H20.2.11~	第9回 H18.4.9~H19.1.11 停止期間 H18.4.9 ~ H18.12.14 (250日) (原子炉起動H18.12.11)	第10回定検による停止!												
5号機 110万kW (H2.4.10運開)	第13回定期検査中 定検停止期間:H24.1.25~	第12回 H18.11.24~H23.2.18 停止期間 H18.11.24 ~ H22.11.25 (1463日) (原子炉起動H22.11.18)	第13回定検による停止!												
6号機 135.6万kW (H8.11.7運開)	第10回定期検査中 定検停止期間:H24.3.26~	第9回 H22.10.31~H23.3.9 停止期間 H22.10.31 ~ H23.1.26 (88日) (原子炉起動H23.1.23)	第10回定検による停止!												
7号機 135.6万kW (H9.7.2運開)	第10回定期検査中 定検停止期間:H23.8.23~	第9回 H22.4.18~H22.7.23 停止期間 H22.4.18 ~ H22.6.28 (72日) (原子炉起動H22.6.26)	第10回定検による停止!												

※プラント名欄に記載してある出力は「定格電気出力」

## ② 発電所設備利用率(%) (5月末現在)

5月	0.0%
24年度累計	0.0%
運転開始後累計	62.7%

## ③ 発電所発電電力量(万kWh) (5月末現在)

5月	0
24年度累計	0
運転開始後累計	87,487,412

## ④ ドラム缶発生量(本) (H23年度第4四半期)

当期発生本数	1,690
貯蔵庫累積貯蔵本数	32,998
貯蔵庫保管容量	45,000

## ⑤ 使用済燃料貯蔵体数(体) (H23年度第4四半期)

使用済燃料貯蔵プール貯蔵体数	13,380
使用済燃料貯蔵プール管理容量	16,915
使用済燃料貯蔵プール貯蔵容量	22,479

## ⑥ 構内従業員データ(人) (6月1日現在)

		東京電力	協力企業	比率
県内	柏崎市	926	2,442	54%
	刈羽村	90	219	5%
	その他	115	1,084	19%
	小計	1,131	3,745	78%
県外		98	1,268	22%
合計		1,229	5,013	-
		6,242		100%
協力企業社数(社)		681		

※「比率」について端数処理の関係で数値と計が含まない場合がある。

## ⑦ 来客情報(人) (5月末現在)

	5月	年度累計
地元	998	2,111
県内	1,192	1,863
県外	1,115	1,609
国外	31	52
合計	3,336	5,635

## ⑧ 今後の主なスケジュール

予定日	内容
6月28日	定例の記者説明会
7月12日	次回定例所長会見

インターネットホームページアドレス  
<http://www.tepco.co.jp/nu/kk-np/index-j.html>

東京電力株式会社  
 柏崎刈羽原子力発電所  
 広報部  
 0257-45-3131(代)

プレス公表（運転保守状況）  
～中越沖地震関連を除く～

平成24年6月14日  
定例所長会見資料

No.	お知らせ日	号機	件名	内容
①	平成23年 2月22日	6号機	原子炉建屋（管理区域）ポンプ室内の床面における放射性物質による汚染の確認について（区分Ⅲ）	<p>（事象の発生状況） 定格熱出力一定運転中の当所6号機において、平成23年2月21日午後0時15分頃、原子炉建屋地下3階の原子炉冷却材浄化系逆洗水移送ポンプ（A）室（管理区域）において、協力企業作業員が、ポンプ点検前の準備作業として放射能測定を実施したところ、同ポンプ室内の床面の1箇所に、社内ですでに定める基準値（4ベクレル/cm<sup>2</sup>）を超える汚染（4.5ベクレル/cm<sup>2</sup>）を確認しました。</p> <p>（安全性、外部への影響） 同ポンプ室出入り口において放射性物質による汚染はなく、管理区域内のその他のエリアへの放射性物質による汚染の拡大がないことを確認しており、本事象による外部への放射能の影響はありません。 なお、今回確認した汚染（4.5ベクレル/cm<sup>2</sup>）は、主要なラドン温泉1滴程度（0.4cc）が床面1cm<sup>2</sup>に付着した場合と同じレベルのものでした。 また、放射能測定を行っていた協力企業作業員に、身体への放射性物質の付着や体内への取り込みおよび計画外の被ばくはありませんでした。</p> <p>（対応状況） 同ポンプ室内の床面で確認された放射性物質については、平成23年2月22日、拭き取り清掃を実施し、再度放射能測定を実施して、測定値が基準値以下であることを確認しました。 原因を調査した結果、当該部屋の天井、高所壁に汚染が検出されなかったため、汚染検出箇所近傍のファンネル（排水口）からベント管（空気抜き配管）を通して微量な放射性物質が床に蓄積したものと推定いたしました。 なお、平成23年3月31日に、当該ファンネルのベント管に装着したフィルタ（2月22日に装着）を測定したところ、Co-60が検出されましたが、本事象にて検出された汚染レベル（4.5Bq/cm<sup>2</sup>）に対して、ごく微量であることから、引き続きファンネルのベント管にフィルタを装着し、定期的な調査を行いました。 <u>調査を行った結果、装着したフィルタから極微量の放射性物質（Co-60）が検出されることがあったため、本事象は一時的な室内のエアバランスの変化等により、ファンネルから空気が逆流したことに伴って発生したものと推定いたしました。また、フィルタ設置後は、周囲の床面から放射性物質は検出されておられません。</u> <u>対策として、当該ファンネルのベント管にフィルタを常時設置し、再発防止を図ることとしました。</u></p>
②	平成23年 4月12日	5号機	原子炉冷却材再循環系MGセット（B）の潤滑油フィルタ切り替え操作に伴う出力降下について（区分その他）	<p>（事象発生状況） 定格熱出力一定運転中の5号機において、原子炉冷却材再循環系MGセット（B）の潤滑油フィルタの差圧に若干の上昇が確認され、切り替えの管理値に近づいてきたことから、平成23年4月12日午後10時より原子炉熱出力を約5%降下させ、潤滑油フィルタを予備側に切り替えることとしました。潤滑油フィルタを予備側に切り替えた後は、原子炉熱出力を定格まで上昇させる操作を行います。 原子炉冷却材再循環系MGセット（B）の潤滑油フィルタの差圧については、通常50kPa程度であり、切り替えにあたっての管理値を100kPaとしています。平成22年12月28日より徐々に差圧の上昇傾向が見られ、4月11日現在89kPaとなりました。切り替えの管理値には達していませんが、切り替え操作の準備にあたって十分な時間を考慮し、本日、切り替えを行うことにいたしました。切り替え作業は3時間程度の予定です。</p> <p>（対応状況） <u>平成23年4月12日、原子炉熱出力を約5%降下させ潤滑油フィルタの予備機への切替を行いました。</u> <u>今回の定期検査において、調査を行ったところ本系統内（Yストレーナ内部）に紙ウェスが付着していることを確認しました。当該紙ウェスの確認状況等から、前回定検時に原子炉冷却材再循環系MGセットを分解点検した際に混入し本系統内に留まり、油の流動により徐々に潤滑油フィルタに付着し差圧が上昇したものと推定いたしました。</u> <u>従来より機器内への異物混入防止対策に努めておりますが、今回の事象を踏まえ、再発防止対策として、内部異物混入確認以降に開口部作業となる場合には、機器の開口部廻りを異物混入防止エリアとして区画し、持込品を厳格に管理することにより、紙ウェス等の機器内への混入防止を図ることとしました。</u></p>

プレス公表（運転保守状況）  
～中越沖地震関連を除く～

平成24年6月14日  
定例所長会見資料

No.	お知らせ日	号機	件名	内容
③	平成24年 1月20日	5号機	定例の動作確認試験における制御棒1本の動作不良について (区分Ⅲ)	<p>(事象の発生状況) 平成24年1月19日午後10時37分頃、運転中の5号機において、週に1回の頻度で行う定例の制御棒の動作確認試験として、制御棒(14-27)を全引き抜き位置から1ノッチ(約15cm)挿入操作を行ったところ、制御棒の挿入状態が継続し、11ノッチ(約168cm)挿入されました。このため、動作確認試験を中止し、当該制御棒に関する機能確認を行った結果、スクラム機能等に異常が無いことを確認しました。 今後、念のため当該制御棒を全挿入位置まで挿入し、制御棒が引き抜き動作しないように安全処置を実施いたします。 なお、本事象発生時には、5号機の発電機出力に変動はありませんでしたが、当該制御棒を全挿入位置まで挿入することに伴い、発電機出力が3万kW程度低下し、103万kW程度の出力で安定運転を継続する予定です</p> <p>(安全性、外部への影響) 当該制御棒については、スクラム機能が確保されており、プラントの安全上の問題はありません。 本事象による、外部への放射能の影響はありません。</p> <p>(対応状況) <u>原因調査の結果、制御棒を挿入するための駆動水を制御する方向制御弁の部品(プランジャ)の一部に腐食が発生し、弁内部に堆積した錆による一時的な弁の動作不良により、制御棒の挿入状態が継続したことがわかりました。腐食の原因は前回定検時の弁点検後の組立作業時に、弁組立に使用するシリコンオイルが、当該部品に付着し、シリコンオイルに含まれる塩素イオンの影響により腐食が発生したものと推定しました。</u> <u>これまでもシリコンオイルの付着を防止する手順により作業を実施していましたが、本事象を踏まえ、対策として方向制御弁の組立作業においては、シリコンオイルの使用後にその都度手袋の交換を確実に実施し、誤ってシリコンオイルが付着することを防止することとしました。</u> <u>また、定検作業開始前にプラントメーカーにて実施している関係者への教育の際に、シリコンオイルの付着防止に関する教育を実施し再発防止を図ることとしました。</u></p>
④	平成24年 4月6日	—	北側66kV開閉所(屋外)におけるけが人の発生について (区分Ⅲ)	<p>(事象発生状況) 平成24年4月5日午後4時10分頃、北側66kV開閉所(屋外)において、ガス遮断器増設工事に従事していた協力企業作業員が、新設の母線ユニット(重量約1トン)を既設の母線に接続するために、新設の母線ユニットを吊った状態で移動させた際、下部に仮置きしていた物品との間に右手の指を挟み負傷したことから、業務車にて病院に搬送しました。</p> <p>(対応状況) 病院における診察の結果、右手人差し指切断(先端部)と診断され、縫合処置を受け、経過観察のために当日は入院しております。 <u>原因調査の結果、新設の母線ユニットを接続する作業において母線ユニットが上下動することへの配慮・予知が不足していたため、母線ユニットが下方向に動いた際、仮置き部品と母線ユニットの取付ボルトとの間に指先を挟み負傷したものと推定しました。</u> <u>対策として、挟まれ災害発生の可能性がある作業においては近傍の仮置き物品を排除することとしました。</u> <u>また、母線ユニットのような特殊形状物品の接続作業においては、事前検討会において図面、手順書を用いて作業員全員にリスクポイントの周知を行い再発防止を図ることとし、作業における挟まれの危険性についてあらためて発電所内に周知し注意喚起いたしました。</u></p>

プレス公表（運転保守状況）  
～中越沖地震関連を除く～

平成24年6月14日  
定例所長会見資料

No.	お知らせ日	号機	件名	内容
⑤	平成24年 5月16日	5号機	定期検査中における給水加熱器水位計の不具合について (区分その他)	<p>(事象の発生状況) 定期検査中の5号機において、原子炉給復水系に設置されている給水加熱器の計器点検を行っていたところ、第4給水加熱器(B)のドレン水位を測定するために5台設置されている水位計の1台で動作不良が確認されました。このため、当該水位計について分解点検を実施した結果、平成24年5月15日、水位計内部にある水位の変動を検知するためのフロート部に変形があることを確認いたしました。</p> <p>(安全性、外部への影響) 現在、5号機は定期検査中のため停止しており、当該水位計は使用していません。今回不具合を確認した水位計は、第4給水加熱器(B)のドレン水位が通常水位より大幅に上昇したことを検知するためのものです。前回の運転サイクルにおいては、第4給水加熱器(B)のドレン水位に異常はなく、プラントへの影響はありませんでした。 また、本事象による外部への放射能の影響はありません。</p> <p>(対応状況) 不具合の確認された水位計のフロート部が変形した原因については、変形の状況から一時的に過大な圧力が加わったことが考えられますが、今後、非凝縮性ガスの燃焼による影響の可能性も含め調査を行います。 なお、第4給水加熱器(B)のその他の水位計(4台)については、分解点検を実施し異常は確認されておりません。 また、その他の給水加熱器の水位計については動作確認により異常は確認されておりませんが、念のため、分解点検を実施いたします。</p>
⑥	平成24年 5月23日	4号機	タービン建屋（非管理区域）におけるけが人の発生について (区分Ⅲ)	—
⑦	平成24年 6月5日	1号機	定期検査中における残留熱除去系電動弁の不具合について (区分Ⅲ)	<p>(事象の発生状況) 定期検査中の1号機において、平成24年6月4日、残留熱除去系(A)の定例的な電動弁の開閉試験の一環として、熱交換器バイパス弁を全閉し、その後全閉に戻す操作を行った際に、動作不良が認められたことから、試験を中断して点検を実施することといたしました。 なお、1号機は昨年8月より定期検査中で停止しており、現在、残留熱除去系(A)系統の機能は保安規定上求められておりません。</p> <p>(安全性、外部への影響) 現時点で、当該弁が全開状態とならなかった場合においても、保安規定上求められる原子炉への注水機能や原子炉の除熱機能は、他の系統により確保されていることから、プラントの安全性に問題はございません。 また、本事象による外部への放射能の影響はありません。</p> <p>(対応状況) 今後、当該弁の点検を実施し、動作不良の原因について調査するとともに、復旧作業を行ってまいります。</p>